

# 教育・保育の「量の見込み」について

平成26年6月19日

津市健康福祉部 子育て推進課

みんなが、子育てしやすい国へ。



図表 1

教育・保育施設の「量の見込み」（第4回津市子ども・子育て会議において事務局提案）

年度		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
量 の 見 込 み	津市	1号認定（3歳～5歳） 幼稚園・認定こども園	2,924	2,913	2,834	2,807	2,766
		2号認定①（3歳～5歳） 幼稚園	578	575	560	554	546
		2号認定②（3歳～5歳） 保育所・認定こども園	3,455	3,441	3,348	3,317	3,269
		3号認定（1歳～2歳） 保育所・認定こども園	2,142	2,113	2,081	2,054	2,029
		3号認定（0歳児） 保育所・認定こども園	627	617	611	602	591
備考							

⇒第4回津市子ども・子育て会議にて示した教育・保育施設の「量の見込み」（全市）から、第3回津市子ども・子育て会議にて示した10の区域（津、久居、河芸、芸濃、美里、安濃、香良洲、一志、白山、美杉）別に、「量の見込み」を算出。

図表2、図表3、図表4・・・教育施設の「量の見込み」を算出

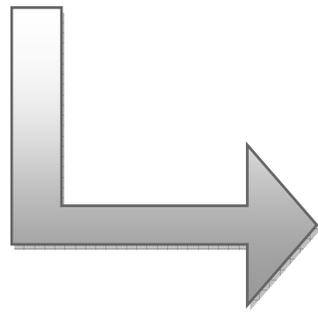
図表5-1、図表5-2、図表6、図表7-1、図表7-2、図表8-1、図表8-2・・・保育施設の「量の見込み」を算出

図表2

教育・保育施設の量の見込み（区域別） 1号認定、2号（幼稚園）認定

(人)

	1号認定 区域別量の見込み					2号(幼稚園)認定 区域別量の見込み				
	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全体	2,924	2,913	2,834	2,807	2,766	578	575	560	554	546
津	1,671	1,679	1,635	1,631	1,589	330	331	323	322	314
久居	546	542	525	518	526	108	107	104	102	104
河芸	209	208	212	209	208	41	41	42	41	41
芸濃	96	94	86	85	88	19	19	17	17	17
美里	26	22	23	19	18	5	4	4	4	4
安濃	90	91	88	86	82	18	18	17	17	16
香良洲	35	35	32	32	32	7	7	6	6	6
一志	158	159	154	155	152	31	31	30	31	30
白山	83	74	71	65	64	16	15	14	13	13
美杉	10	9	8	7	8	2	2	2	1	1



(人)

	1号・2号(幼稚園)認定 区域別量の見込み(計)				
	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全体	3,502	3,488	3,394	3,361	3,312
津	2,001	2,010	1,958	1,952	1,903
久居	654	649	628	621	630
河芸	251	250	254	250	249
芸濃	115	112	103	102	105
美里	31	26	27	22	22
安濃	108	109	105	103	98
香良洲	42	41	38	39	39
一志	189	191	185	185	182
白山	100	88	86	78	76
美杉	12	10	10	9	9

家庭類型は異なるが、どちらも「教育を希望」することから、「量の見込み」を一体で算出する。

図表3

【区域別】教育・保育施設の「量の見込み」と実績 1号認定、2号（幼稚園）認定

(人)

	実績	1号・2号(3～5歳)(幼稚園) 区域別量の見込み(計)					(26年度実績)-(各年度「量の見込み」)				
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全体	3,427	3,502	3,488	3,394	3,361	3,312	▲ 75	▲ 61	33	66	115
津	1,969	2,001	2,010	1,958	1,952	1,903	▲ 32	▲ 41	11	17	66
久居	622	654	649	628	621	630	▲ 32	▲ 27	▲ 6	1	▲ 8
河芸	147	251	250	254	250	249	▲ 104	▲ 103	▲ 107	▲ 103	▲ 102
芸濃	131	115	112	103	102	105	16	19	28	29	26
美里	52	31	26	27	22	22	21	26	25	30	30
安濃	147	108	109	105	103	98	39	38	42	44	49
香良洲	55	42	41	38	39	39	13	14	17	16	16
一志	181	189	191	185	185	182	▲ 8	▲ 10	▲ 4	▲ 4	▲ 1
白山	122	100	88	86	78	76	22	34	36	44	46
美杉	1	12	10	10	9	9	▲ 11	▲ 9	▲ 9	▲ 8	▲ 8

※ 実績について…平成26年度5月在園児数より

全体の「量の見込み」を人口比により区域別に按分をし、「量の見込み」とした。また、平成26年度5月における就園実績を児童住所地に基づき地域別に示した。(※平成27年度における1号、2号認定区分の全市「量の見込み」である3,502人は、第4回子ども・子育て会議にて、アンケート調査から算出されたニーズ量から平成25年度の実績を踏まえ、算出し、提案したもの。)

図表4

【区域別】教育・保育施設の「量の見込み」と利用定員 1号認定、2号（幼稚園）認定

	施設定員	1号・2号(3～5歳)(幼稚園) 区域別量の見込み(計)					(施設定員)-(各年度「量の見込み」)				
		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
		全体	6,410	3,502	3,488	3,394	3,361	3,312	2,908	2,922	3,016
津	3,800	2,001	2,010	1,958	1,952	1,903	1,799	1,790	1,842	1,848	1,897
久居	980	654	649	628	621	630	326	331	352	359	350
河芸	500	251	250	254	250	249	249	250	246	250	251
芸濃	200	115	112	103	102	105	85	88	97	98	95
美里	80	31	26	27	22	22	49	54	53	58	58
安濃	300	108	109	105	103	98	192	191	195	197	202
香良洲	130	42	41	38	39	39	88	89	92	91	91
一志	260	189	191	185	185	182	71	69	75	75	78
白山	160	100	88	86	78	76	60	72	74	82	84
美杉	0	12	10	10	9	9	▲12	▲10	▲10	▲9	▲9

※

次に、利用実績に代わり、各施設における最大就園可能人数を施設定員として示し、各地域別「量の見込み」と比較した（図表4）。

図表3では、平成26年度の実績に対して、区域別「量の見込み」が上回る区域（河芸、美杉）、下回る区域（芸濃、美里、安濃、香良洲、白山）、実績に近い区域（津、久居、一志）とあるが、図表4では、施設定員に対して、美杉区域を除いたいずれの区域でも「量の見込み」は下回っている。また、平成26年度利用実績と比較しても、施設定員が大きく上回ることから、※美杉区域における教育・保育の提供の方策については柔軟に対応する等の必要はあるものの、全市においては十分に教育施設の「量の見込み」は確保できる状況にあるといえる。

次に、保育施設の「量の見込み」を示す。

図表3、図表4と同様に全市「量の見込み」を人口比により按分し、各区域の「量の見込み」とした。

図表5-1 【区域別】教育・保育施設の「量の見込み」と実績 2号（保育所）認定

(人)

	実績	2号(3~5歳)(保育所)区域別量の見込み					(26年度実績)-(各年度「量の見込み」)				
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全体	3,492	3,455	3,441	3,348	3,317	3,269	37	51	144	175	223
津	2,020	1,974	1,984	1,932	1,927	1,877	46	36	88	93	143
久居	549	645	640	620	613	621	▲ 96	▲ 91	▲ 71	▲ 64	▲ 72
河芸	330	247	246	250	247	246	83	84	80	83	84
芸濃	75	114	111	102	101	104	▲ 39	▲ 36	▲ 27	▲ 26	▲ 29
美里	71	30	26	27	22	22	41	45	44	49	49
安濃	102	106	108	104	101	97	▲ 4	▲ 6	▲ 2	1	5
香良洲	58	42	41	37	38	38	16	17	21	20	20
一志	179	186	188	182	183	179	▲ 7	▲ 9	▲ 3	▲ 4	▲ 0
白山	92	98	87	84	77	75	▲ 6	5	8	15	17
美杉	16	12	10	10	9	9	4	6	6	7	7

図表5-2 【区域別】教育・保育施設の量の見込みと実績 3号（保育所）認定

(人)

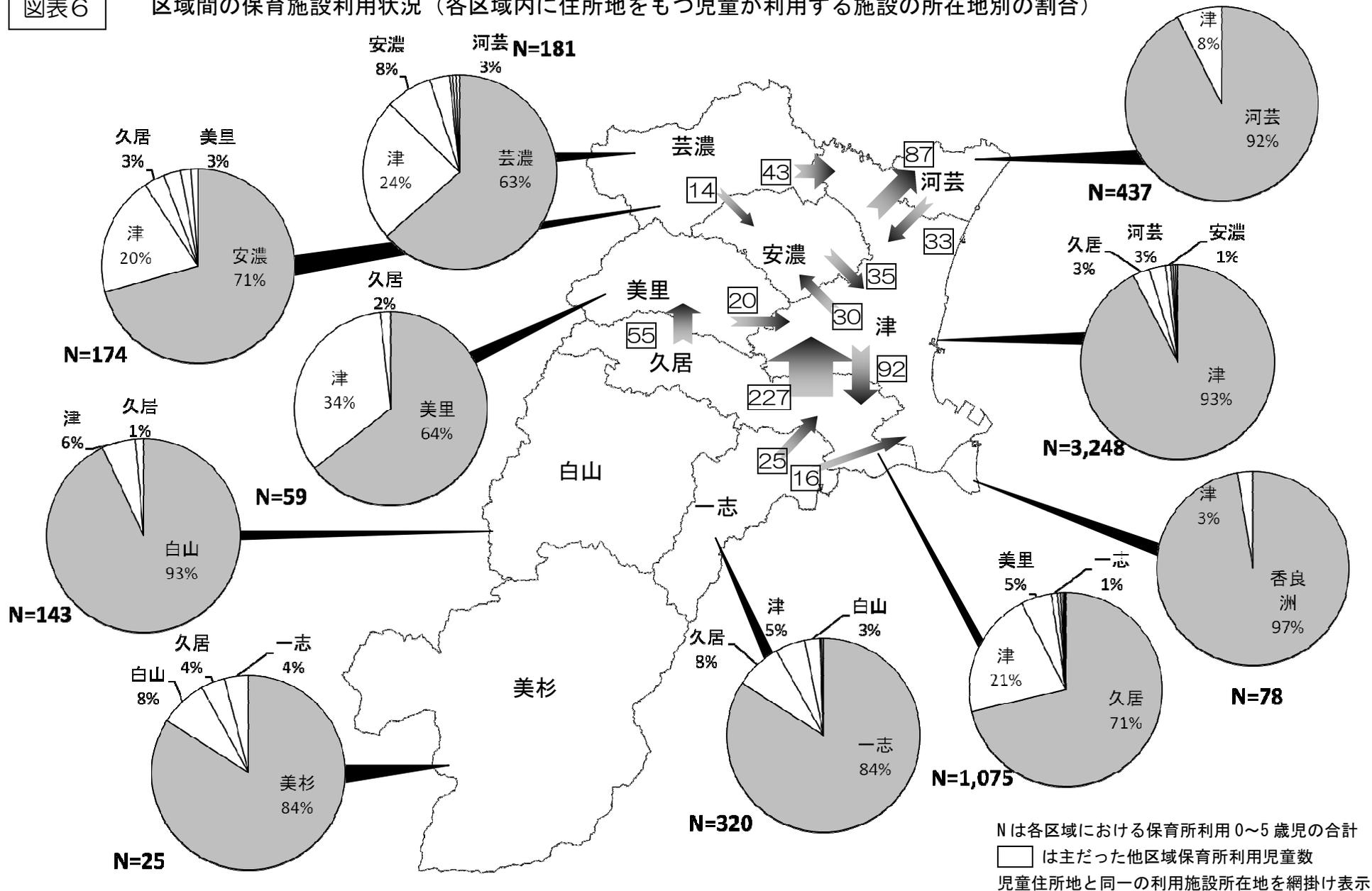
	実績	3号(1・2歳)区域別量の見込み					(26年度実績)-(各年度「量の見込み」)				
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全体	1,933	2,142	2,113	2,081	2,054	2,029	▲ 209	▲ 180	▲ 148	▲ 121	▲ 96
津	1,190	1,261	1,230	1,207	1,186	1,167	▲ 71	▲ 40	▲ 17	4	23
久居	290	388	395	393	391	391	▲ 98	▲ 105	▲ 103	▲ 101	▲ 101
河芸	147	155	153	153	154	153	▲ 8	▲ 6	▲ 6	▲ 7	▲ 6
芸濃	46	70	72	72	72	71	▲ 24	▲ 26	▲ 26	▲ 26	▲ 25
美里	34	15	14	13	13	13	19	20	21	21	21
安濃	55	63	59	58	57	56	▲ 8	▲ 4	▲ 3	▲ 2	▲ 1
香良洲	28	25	26	25	24	23	3	2	3	4	5
一志	91	111	109	106	105	104	▲ 20	▲ 18	▲ 15	▲ 14	▲ 13
白山	47	49	49	48	47	45	▲ 2	▲ 2	▲ 1	0	2
美杉	5	6	6	6	6	5	▲ 1	▲ 1	▲ 1	▲ 1	0

(人)

	実績	3号(0歳)区域別量の見込み					(26年度実績)-(各年度「量の見込み」)				
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全体	517	627	617	611	602	591	▲ 110	▲ 100	▲ 94	▲ 85	▲ 74
津	346	370	363	358	352	345	▲ 24	▲ 17	▲ 12	▲ 6	1
久居	64	114	113	112	112	110	▲ 50	▲ 49	▲ 48	▲ 48	▲ 46
河芸	47	44	44	44	44	43	3	3	3	3	4
芸濃	8	23	23	23	23	23	▲ 15	▲ 15	▲ 15	▲ 15	▲ 15
美里	9	4	4	4	4	4	5	5	5	5	5
安濃	12	18	18	18	17	17	▲ 6	▲ 6	▲ 6	▲ 5	▲ 5
香良洲	6	9	8	8	8	7	▲ 3	▲ 2	▲ 2	▲ 2	▲ 1
一志	15	29	29	29	28	27	▲ 14	▲ 14	▲ 14	▲ 13	▲ 12
白山	9	13	13	13	13	13	▲ 4	▲ 4	▲ 4	▲ 4	▲ 4
美杉	1	2	2	2	1	1	▲ 1	▲ 1	▲ 1	▲ 0	▲ 0

図表6

区域間の保育施設利用状況（各区域内に住所地をもつ児童が利用する施設の所在地別の割合）



(補正例) 津区域の「量の見込み」算出について

2号(3~5歳)認定区分の津区域「量の見込み」1,974人(A)

同認定区分の、津区域内に住所地をもつ、保育所を利用する児童数(実績)1,948人(B)

同認定区分の、津区域内に住所地をもつ、津区域内の保育所を利用する児童数(実績)1,801人(C) } とすると、

※(C/B=実績から求める、津区域に住所地をもつ児童の、津区域の保育所を利用する割合)

$A \times C/B = 1,825$ 人 …津区域に住所地をもつ児童の、津区域の保育所を利用する「量の見込み」となる。

同様に、他区域に住所地をもつ児童の、津区域の保育所を利用する「量の見込み」を算出し、合計する。

図表7-1

【区域別】教育・保育施設の「量の見込み」と実績 2号認定(区域間の相互利用を考慮し、補正)

(人)

	実績 2号(3~5歳)(保育所)認定 区域別量の見込み						(26年度実績)-(各年度「量の見込み」)				
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全体	3,492	3,455	3,441	3,348	3,317	3,269	37	51	144	175	223
津	2,020	2,031	2,041	1,988	1,983	1,932	▲ 11	▲ 21	32	37	88
久居	549	544	541	524	518	525	5	8	25	31	24
河芸	330	296	295	300	296	295	34	35	30	34	35
芸濃	75	81	80	73	72	75	▲ 6	▲ 5	2	3	0
美里	71	66	57	59	48	48	5	14	12	23	23
安濃	102	108	110	106	104	99	▲ 6	▲ 8	▲ 4	▲ 2	3
香良洲	58	47	47	43	43	43	11	11	15	15	15
一志	179	171	173	168	168	165	8	6	11	11	14
白山	92	98	88	85	77	76	▲ 6	4	7	15	16
美杉	16	11	10	10	9	9	5	6	6	7	7

図表7-2 【区域別】教育・保育施設の「量の見込み」と実績 3号認定 (区域間の相互利用を考慮し、補正)

(人)

	実績 3号(1・2歳)認定 区域別量の見込み						(26年度実績)-(各年度「量の見込み」)				
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全体	1,933	2,142	2,113	2,081	2,054	2,029	▲ 209	▲ 180	▲ 148	▲ 121	▲ 96
津	1,190	1,341	1,309	1,284	1,261	1,242	▲ 151	▲ 119	▲ 94	▲ 71	▲ 52
久居	290	308	314	313	312	311	▲ 18	▲ 24	▲ 23	▲ 22	▲ 21
河芸	147	171	170	170	170	170	▲ 24	▲ 23	▲ 23	▲ 23	▲ 23
芸濃	46	50	53	52	52	52	▲ 4	▲ 7	▲ 6	▲ 6	▲ 6
美里	34	34	33	31	31	31	▲ 0	1	3	3	3
安濃	55	56	53	52	51	50	▲ 1	2	3	4	5
香良洲	28	31	32	31	29	28	▲ 3	▲ 4	▲ 3	▲ 1	0
一志	91	94	93	91	90	89	▲ 3	▲ 2	0	1	2
白山	47	53	53	52	51	49	▲ 6	▲ 6	▲ 5	▲ 4	▲ 2
美杉	5	4	5	5	5	4	1	0	0	0	1

(人)

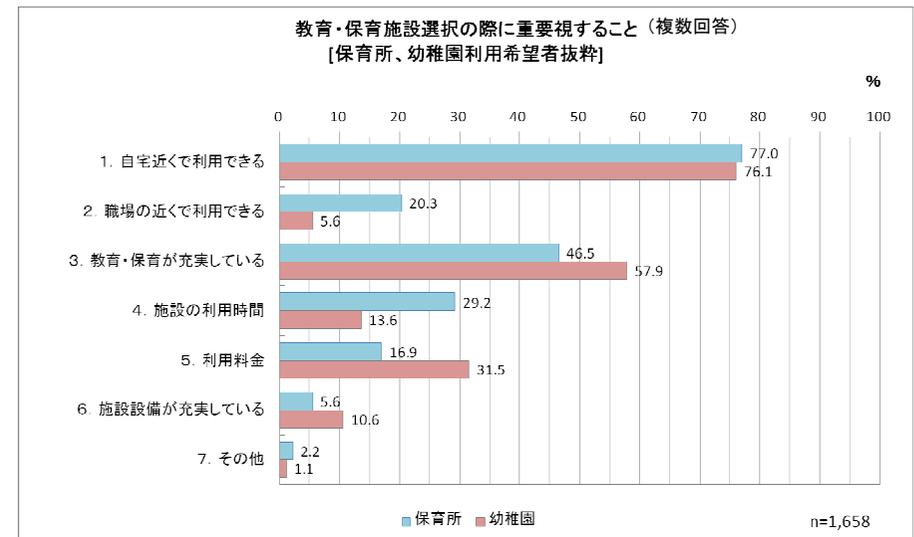
	実績 3号(0歳)認定 区域別量の見込み						(26年度実績)-(各年度「量の見込み」)				
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全体	517	627	617	611	602	591	▲ 110	▲ 100	▲ 94	▲ 85	▲ 74
津	346	363	356	351	345	339	▲ 17	▲ 10	▲ 5	1	7
久居	64	109	108	108	108	106	▲ 45	▲ 44	▲ 44	▲ 44	▲ 42
河芸	47	57	57	57	57	56	▲ 10	▲ 10	▲ 10	▲ 10	▲ 9
芸濃	8	17	18	18	18	18	▲ 9	▲ 10	▲ 10	▲ 10	▲ 10
美里	9	12	12	12	12	13	▲ 3	▲ 3	▲ 3	▲ 3	▲ 4
安濃	12	21	21	21	21	20	▲ 9	▲ 9	▲ 9	▲ 9	▲ 8
香良洲	6	11	11	11	10	10	▲ 5	▲ 5	▲ 5	▲ 4	▲ 4
一志	15	23	23	23	22	22	▲ 8	▲ 8	▲ 8	▲ 7	▲ 7
白山	9	14	14	14	13	13	▲ 5	▲ 5	▲ 5	▲ 4	▲ 4
美杉	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1

図表 5 - 1、図表 5 - 2 の実績数は、1 ~ 5 歳児は平成 2 6 年 4 月入所児童数から、0 歳児については、前回会議に示したように年度当初から同年度末にかけて入所児童数が約 2 0 0 人増加する(平成 2 5 年度)ことから、平成 2 6 年 3 月入所児童数から求めた値である。区域別「量の見込み」は、その区域に住所地がある児童のニーズを示しているが、実績は保育所施設の所在地をもとに区域別に求めたものであり、その区域における入所可能児童数を示している。

また、図表 6 には、各区域内に住所地をもつ児童が、どの区域の保育所を利用しているかを比率で示した。区域によっては他区域の施設を 4 割近くの児童が利用していることが示された。

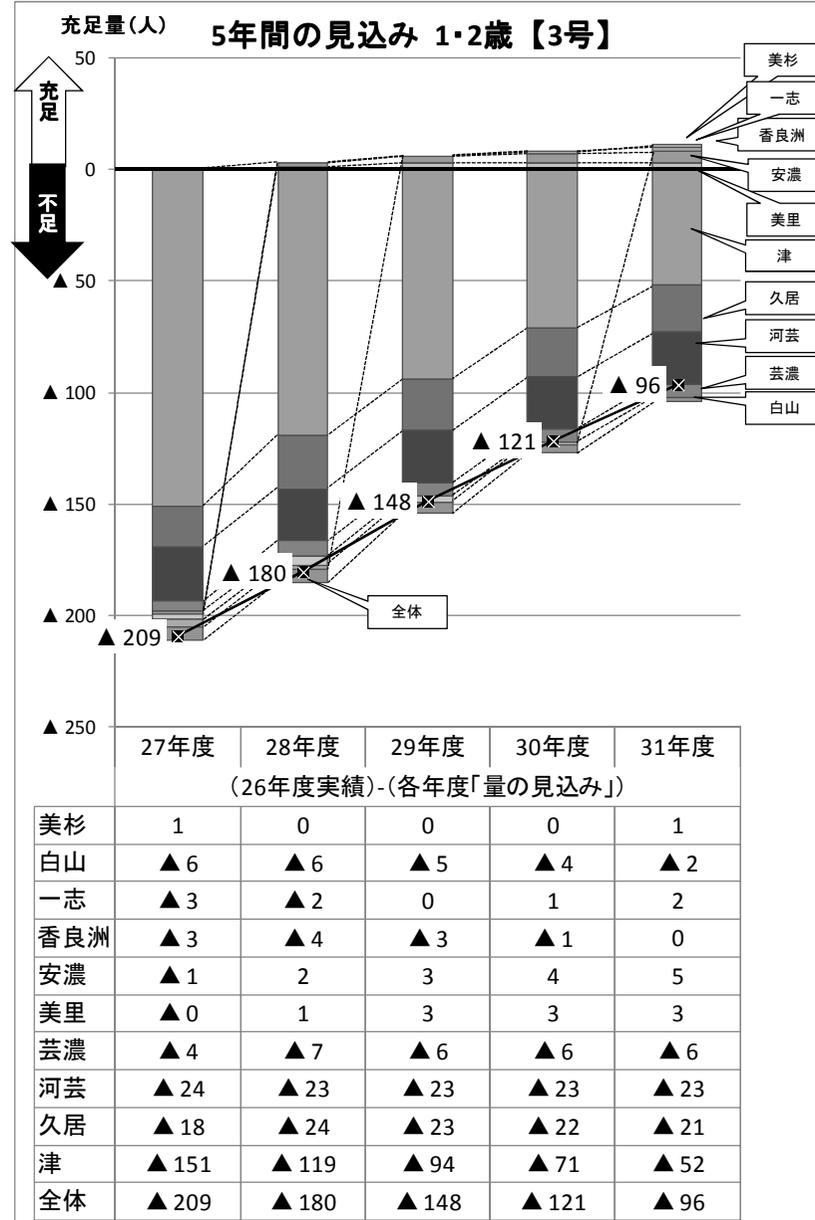
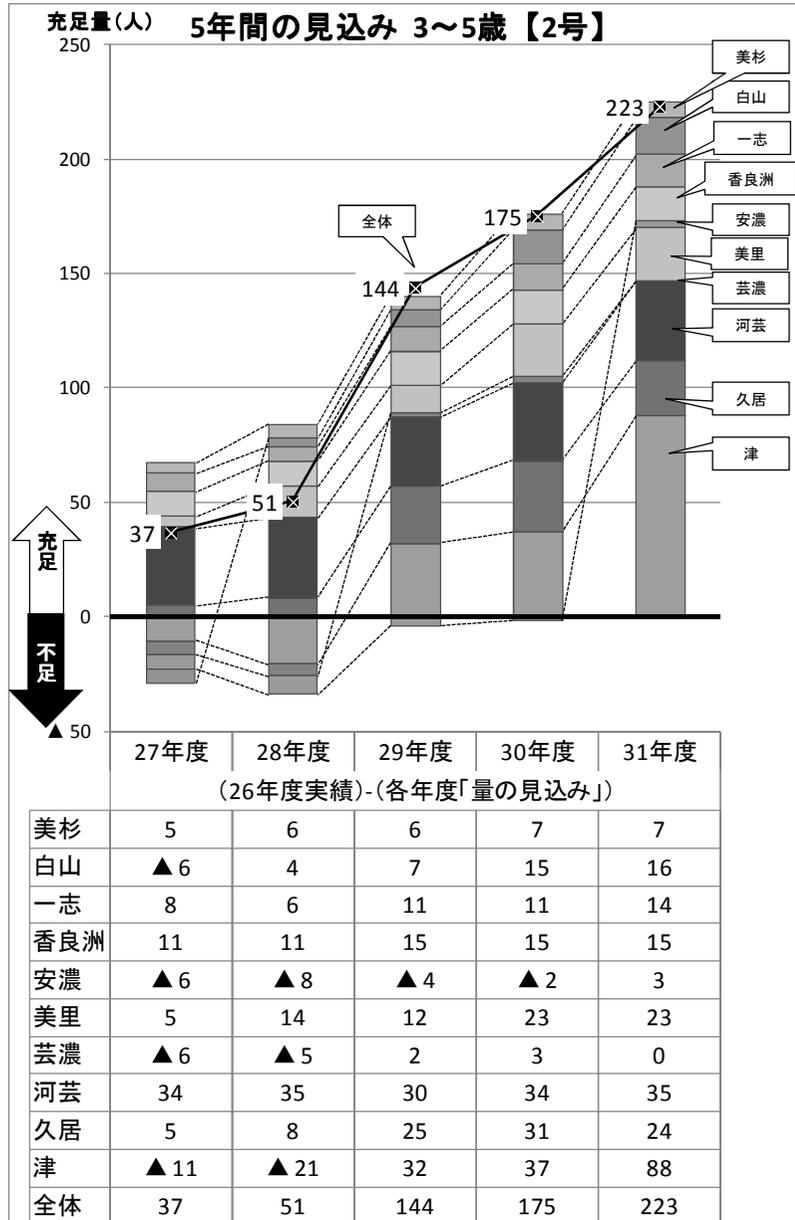
保育所の利用にあたっては他区域の利用に制限がないため、保護者の就労先や祖父母など援護者の近くの施設利用を希望する場合のほか、区域内の施設に定員の余裕がなく、やむなく第 1 希望でない他区域の施設を利用していることも要因として考えられる。

アンケート調査からは、保護者のニーズとして自宅近くの施設を利用したい傾向が認められること(下図表参考・第 3 回津市子ども子育て会議資料より再掲)、また、施設の利用が児童と地域のつながりを育む機会ともなることにも留意しつつ、「量の見込み」については、区域を越えた利用を考慮に入れ、現状に即した状況を把握する必要がある。このため、区域を越えて利用している割合を、各区域別、0 歳児、1・2 歳児、3 ~ 5 歳児別に実績から算出し、人口比率から求められた量の見込みに乗じて、他区域の利用量を求め、補正した。この結果を図表 7 - 1、図表 7 - 2 に示した。



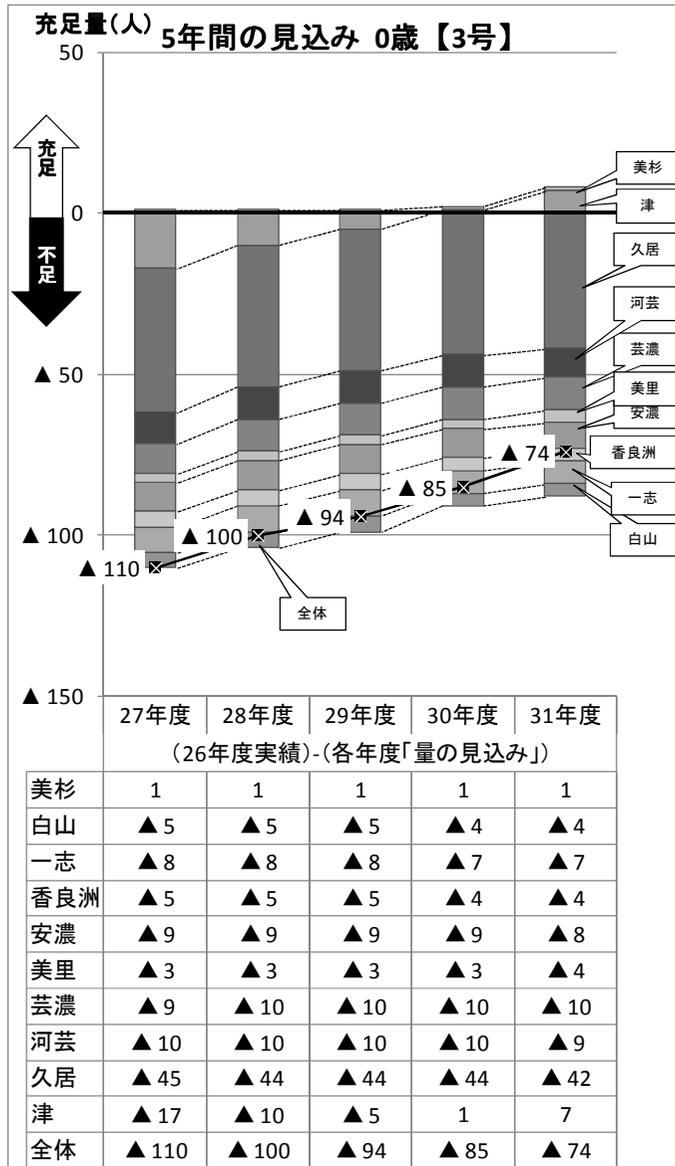
図表8-1

平成26年度実績に対する各年度の「量の見込み」の充足量



図表8-2

平成26年度実績に対する各年度の  
「量の見込み」の充足量



図表8-1、図表8-2に、各区域別の量の見込み（補正後）（図表7-1、図表7-2）に対して、平成26年度入所実績でどれくらい充足できるかを示した。

今後、津市の総児童数が減少することに伴い、量の見込みも減少するため、2号においては現体制でも確保されている状況が認められるが、一方で3号認定子どもの量の見込みに対しては、確保の方策を進めなければ、平成31年度においても依然保育を必要とする保護者・児童が多数見込まれる状況である。

このため、確保の方策を計画する上で、この3号認定子ども（0歳、1歳、2歳）に対して重点的に行う必要がある。

注) 図表8-1、図表8-2における各区域「量の見込み」について、補正をしているため、その合計値が全市「量の見込み」と一致しない場合があります。

## 提供体制の確保の方策について

- ① 児童数の減少傾向を踏まえ、既存の施設を最大限活用する、効率的な確保の方策が必要
- ② 設定した区域内での確保を前提としながらも、区域を越えた利用を行っている現状を踏まえ、近隣、隣接区域での提供体制の確保に対して柔軟な対応が必要
- ③ 特に、量の見込が多い3号認定子ども（0歳～2歳）に対する確保を重点的に行う
- ④ 1号、2号認定子どもの、教育・保育のニーズと実際の利用状況の相違が見られ（第4回津市子ども・子育て会議資料参考）、保護者の希望と家庭の状況を両方満たすことが現提供施設の中で対応できていないことが考えられることから、個人の状況に即して必要なメニューが選択可能となる多彩な提供体制の整備について検討していく

## 次回会議までに検討

⇒既存施設による確保方策

⇒認可外保育施設の現状と、新制度への対応について意向を確認